高城町文化財調査報告書　第３集

上原（うえはら）遺跡
（第２地点）

平成５年度細井地区県営特殊農地保全整備事業に伴う
埋蔵文化財調査概要報告書

１９９４

宮崎県北諸県郡
高城町教育委員会

土師器出土状況

発掘調査前遺跡全景（南から）

序

高城町教育委員会では、平成５年度細井地区県営特殊農地保全整備事業に伴い、宮崎県北諸県農林振興局の委託を受けて、埋蔵文化財の発掘調査を行いました。

今回の発掘調査では、縄文時代から中世にかけての数多くの貴重な資料を得ることができました。

特に、高原スコリアの下から出土した土師器は、宮崎県の奈良時代の土器編年に影響を与えるだけでなく、今後の町民各位の歴史研究や文化財保護の向上に寄与することと期待しております。

末筆ながら、遺跡の発掘調査及び整理、本書の作成に際し、多大なるご協力、ご理解を賜った細井地区土地改良区、宮崎県北諸県農林振興局、宮崎県教育委員会文化課、各関係機関、町民各位の皆様方に深く感謝を申し上げる次第であります。

平成６年３月

高城町教育委員会
教育長　新　地　文　雄

例　　言

1、本書は、宮崎県北諸県郡高城町大字有水の細井地区における県営特殊農地保全整備事業に伴い、平成5年度に実施した上原遺跡第2地点の発掘調査概要報告書である。

2、発掘調査は、平成5年12月8日から平成6年3月30日まで実施した。

3、発掘調査は、高城町教育委員会が主体となり、高城町教育委員会社会教育課主事白谷健一が行い、宮崎県教育委員会文化課埋蔵文化財第二係長面高哲郎、同文化課主査石川悦雄、同文化課主査菅付和樹の調査指導を受けた。

4、調査組織は以下のとおりである。

調査主体	高城町教育委員会	
	教　育　長	新地文雄
	社会教育課長	松田俊夫
	文化係長	田中孝明
調査担当	町社会教育課主事	白谷健一
調査指導	県文化課埋蔵文化財第二係長	面高哲郎
	県文化課主査	石川悦雄
	県文化課主査	菅付和樹
調査補助		押川富代子、奥宮靖代

5、本書の執筆及び編集は白谷が行った。

6、出土遺物や写真及び図面は高城町教育委員会で保管している。

7、航空写真については、㈱スカイサーベイに委託した。

本　文　目　次

第　Ⅰ　章　　調査に至る経緯 …… 1
第　Ⅱ　章　　遺跡の立地と環境 …… 3
第　Ⅲ　章　　発掘調査の概要 …… 4
第　Ⅳ　章　　まとめ …… 5

挿　図　目　次

第　1　図　　上原遺跡位置図 …… 2
第　2　図　　遺跡周辺地形図 …… 3

図　版　目　次

巻頭図版 1　　土師器出土状況
　　2　　発掘調査前遺跡全景（南から）
図　版　1　　基本土層写真
　　Ｂ地区近景（西から）
図　版　2　　Ａ地区溝と土坑検出状況
　　Ａ地区溝完掘状況
図　版　3　　Ｃ地区縄文住居検出状況（南から）
　　Ｃ地区縄文住居発掘状況（西から）
図　版　4　　Ｂ地区土坑遺物出土状況
　　発掘調査風景

第Ⅰ章　調査に至る経緯

昭和63年より、高城町（たかじょうちょう）大字有水（ありみず）の細井（ほそい）地区において、宮崎県北諸県農林振興局による県営特殊農地保全整備事業が計画された。そのため事業地内の埋蔵文化財の有無が問題となった。

高城町では遺跡の分布調査を行っていないため、平成２年に宮崎県教育委員会文化課面高哲郎と高城町教育委員会社会教育課広池洋三が事業予定地全体の踏査を行った。その結果、かなりの広範囲で土器の分布が認められ、11ケ所の遺跡が確認された。

しかし、この計画は地元の調整がつかず、立ち消えの状態になったが、再び平成３年度に計画が持ち上がり、平成４年度から全体事業実施予定地の南側から工事を着工することになった。

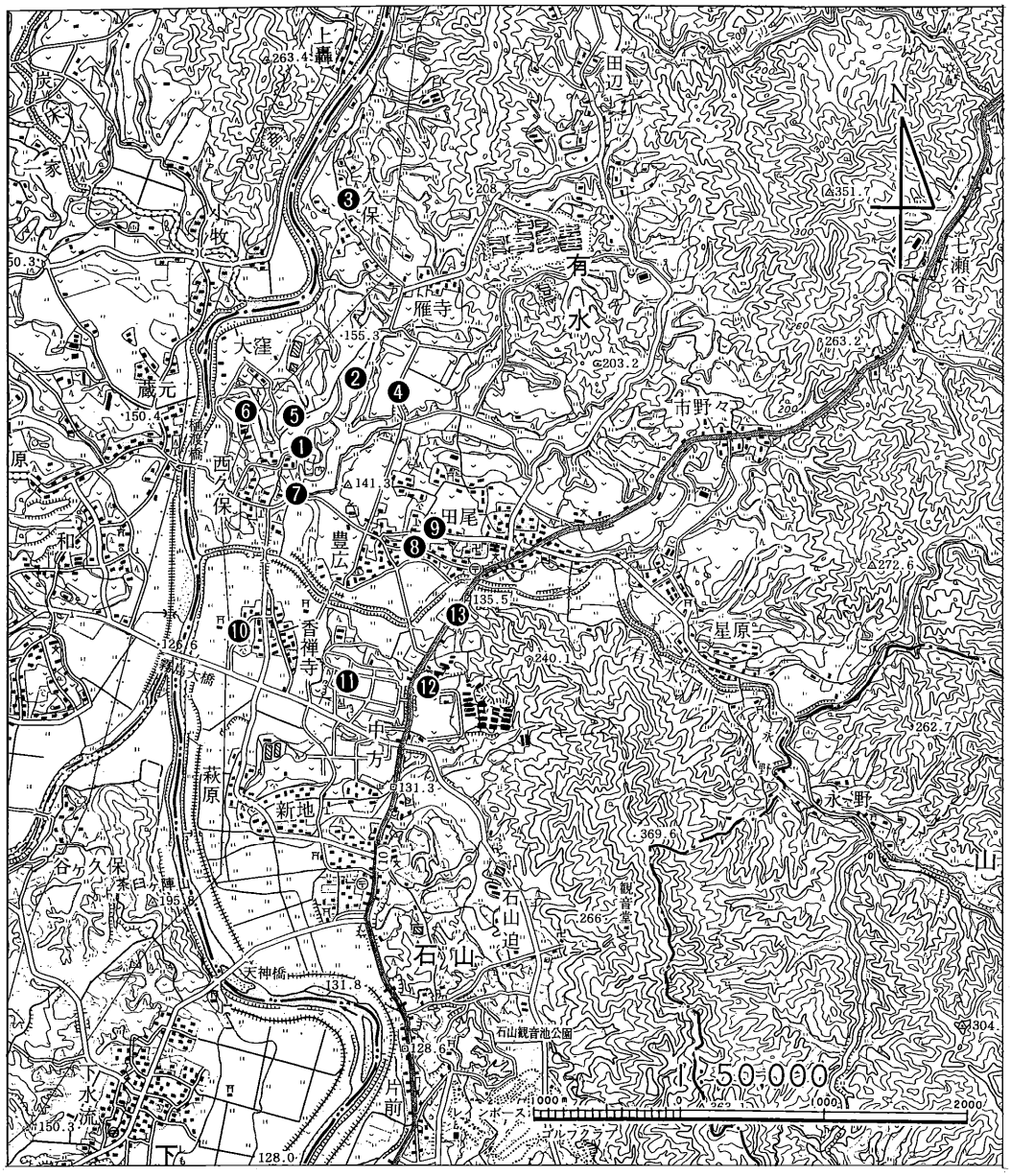
そのため平成４年度の事業予定地の踏査を高城町教育委員会社会教育課白谷健一が行ない、縄文時代から平安時代にかけての土器を採集した。その後、再度県文化課面高哲郎と町社会教育課白谷健一が踏査を行い、一部の場所については面高哲郎が試掘調査を行い、遺跡の推定範囲を想定した。

その結果を受けて、細井地区土地改良区、宮崎県北諸県農林振興局、高城町耕地課、宮崎県教育委員会文化課、高城町教育委員会社会教育課で埋蔵文化財について協議を行ったが、現状保存が困難な道路及び削平を行う部分については、記録保存の措置をとることとなった。

調査の結果、上原（うえはら）遺跡においては、古墳時代の集落跡が確認された。また縄文時代の竪穴住居跡や中世の掘立柱建物跡や溝状遺構が確認された。

平成５年４月になり、県文化課石川悦雄と東憲章、町社会教育課白谷健一の三者による踏査を平成５年度以降事業実施予定地内で行い、平成５年度事業実施予定地の協議資料としたが、その後の協議や諸般の事情により、平成５年度は県営特殊農地保全整備事業を実施しないことになった。

しかし、地元の強い要望や平成６年度の事業を円滑に進めることを考慮して、平成６年度事業実施予定地の一部の発掘調査を平成５年12月から行うこととなった。



第１図　上原遺跡位置図（１／50,000）

１、上原遺跡第１地点　**２、上原遺跡第２地点**　３、八久保遺跡

４、雁寺遺跡　５、須田木城　６、下の城　７、高城古墳群21･22号墳

８、高城古墳群20号墳　９、高城古墳群19号墳　10、香禅寺遺跡

11、高城古墳群16･17号墳　12、高城古墳群15号墳

13、高城古墳群14号墳

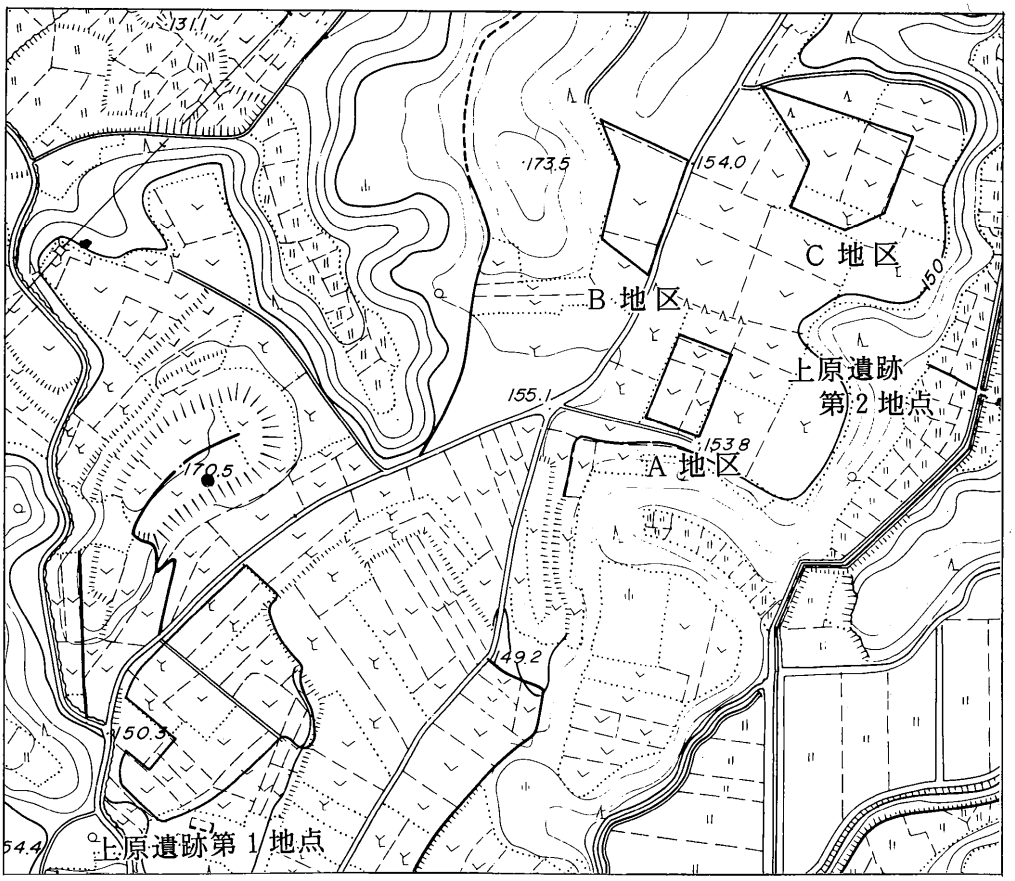
第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

高城町は宮崎県の南西部に位置する都城盆地の北部にあり、北は野尻町、東は高岡町、山之口町、南は都城市、三股町、西は高崎町に囲まれている。

上原遺跡は高城町の中心部より、北に10kmほどのところにあり、西を大淀川、南を有水川に挟まれた台地上に位置している。台地にはいくつかの谷が入っており、水が湧き出る所がある。

周辺の遺跡は縄文時代の八久保遺跡、古墳時代の雁寺遺跡の他に県指定古墳が8基あり、有水川を越えた石山の香禅寺遺跡からは板石積石室が出土している。遺跡の西側には下の城址や須田木城址といった中世山城もある。

大淀川を越えた高崎町には古墳時代の鳩越第1遺跡や縄文時代の鳩越第2遺跡や中世山城の柳の城址がある。



第2図　遺跡周辺地形図

第Ⅲ章　発掘調査の概要

上原遺跡第２地点の発掘調査は高城町教育委員会が平成５年12月８日から平成６年３月30日まで行った。

調査対象面積は7,800㎡であったが、調査場所が３カ所に分かれており、場所によっては作物の関係で調査ができない状態であった。そのため作物の刈り入れが終わっている畑から、重機で表土を剥ぎ始め、剥ぎ終わった畑から仮の調査区Ⅰ～Ⅶ区まで設定した。その後、正式に南側からＡ地区、Ｂ地区、Ｃ地区と設定し直した。

今回の調査は県営特殊農地保全整備事業の工事と並行しないため、調査区周辺は作物の作付けを行っており、発掘調査の廃土を調査区内で遣り繰りをしなければいけなく、半分を掘っては半分を返すという方法を採らざるをえなかった。

上原遺跡第２地点の基本層序は、第Ⅰ層が表土（耕作土）、第Ⅱ層が高原（たかはる）スコリア（焼きボラ）、第Ⅲ層が黒色土、第Ⅳ層が黒褐色土（ボラ少量含む）、第Ⅴ層が黒褐色土（下にいくほどボラ多く含む）、第Ⅵ層が御池（みいけ）ボラであった。

Ａ地区の西側は御池ボラまで遺物包含層が存在しなく、遺構検出面の上はすぐ耕作土のため、かなりの撹乱を受けていた。

Ｂ地区は南側の畑が畑の造成で遺物包含層がなく、表土の下は御池ボラであり、重機による土採りも行われていた。北側の畑は、高原スコリアが残っており、表土から御池ボラまでの深さが1.2～1.5ｍあった。

Ｃ地区は表土から御池ボラまでの深さが１～1.2ｍあったが、あまり高原スコリアの残りが良くなかった。

高原スコリアは788年（延暦７年）に霧島の御鉢から噴出した火山灰と言われ、この第Ⅱ層高原スコリア直下の第Ⅲ層黒色土から土師器が出土している。時期は奈良時代であろう。第Ⅳ層黒褐色土からは古墳時代の土器が、第Ⅴ層黒褐色土からは弥生時代の土器や縄文時代後期の市来式土器が出土している。

第Ⅵ層御池ボラの下には黒色土があり、その下にはアカホヤ層が存在するが、今回の調査ではその地層まで達していない。一部、トレンチ調査でアカホヤ層上面まで調査している所があるが、遺物や遺構は出土していない。

Ａ地区、Ｂ地区、Ｃ地区の３地区とも、トレンチャーによる撹乱をかなりの面積で受けているが、遺物包含層は残存している。

出土遺物は３地区とも、縄文～中世にかけてのものである。遺物の出土量はＡ地区とＢ地区をみてみると、以外と思えるほど少なく、Ｃ地区が若干多い程度であった。

縄文時代の土器は縄文時代後期の市来式土器や磨消縄文土器、縄文時代晩期の磨研土器が出土している。

弥生時代と古墳時代の土器も出土しているが、遺物で今回、特に注目されるも

のは土師器であろう。

この土師器は第Ⅲ層から出土している。第Ⅲ層の上層は高原スコリアが堆積しているので、時期は奈良時代の8世紀後半である。これに共伴する遺構は周りが黒色土だったため、出土した時は確認できなかった。そのため出土状況の実測後、その地点にセクション・ベルトをいれたら、土層断面で土坑の立ち上がりらしきものを確認した。器形は坏で、刀子と共伴しているので土坑墓の可能性がある。

遺構は、土坑が各時代とも多数出土している。

住居跡は縄文時代後期と弥生時代後期の竪穴住居跡が各時代とも一軒ずつ出土している。

縄文時代の住居跡は円形で、住居内に2つの大きな土坑を持つ。

第Ⅳ章　まとめ

今回の調査では高原スコリア直下から、土師器が出土したことが特に注目される。時期は奈良時代後半（8世紀後半）頃だと考えられ、今後の土師器の土器編年に影響を与えるだろう。昨年の調査では奈良時代か平安時代の掘立柱住居跡が出土しており、その時に共伴した土器と再度比較検討してみる必要性が出てきた。

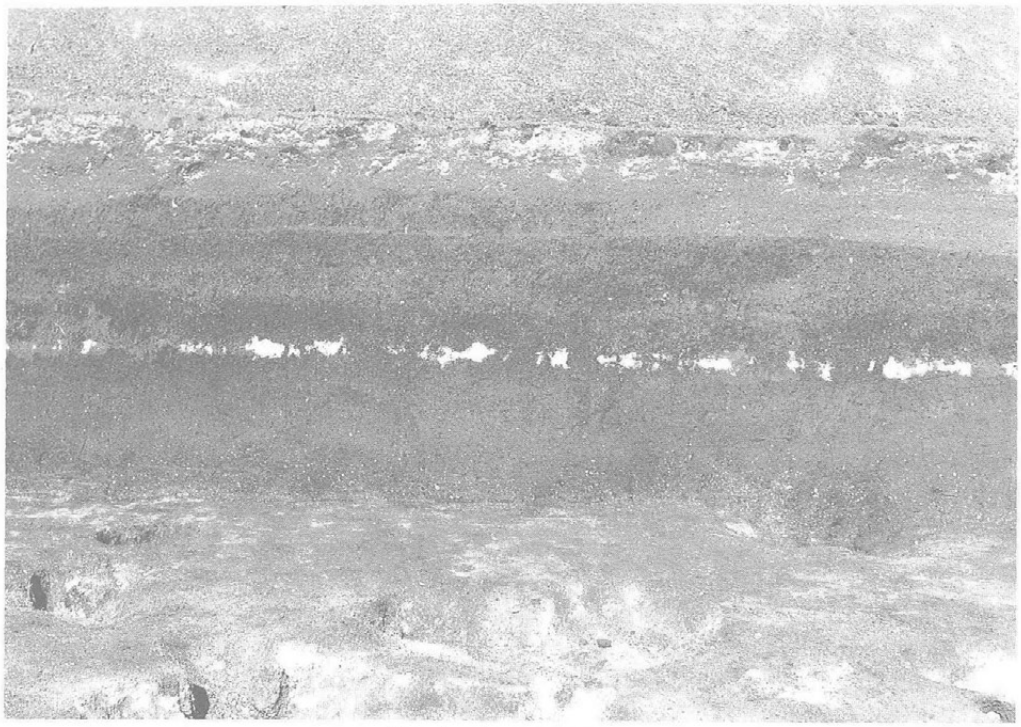
また、今回の調査ではかなりの土坑が出土しており、その遺構の性格も考えなければならない。

今後の研究課題としては、土師器の土器編年の再検討、土坑の性質の検討、第1地点と第2地点の住居跡の比較があげられるが、そのことについては本報告に期したいと思う。

〈参考文献〉

『高城町史』　高城町教育委員会　1989
『宮崎県遺跡台帳』　宮崎県教育委員会　1976
「香禅寺遺跡」　『宮崎県文化財調査報告書第4集』　宮崎県教育委員会　1959
「上原遺跡」　『高城町文化財調査報告書第2集』　高城町教育委員会　1993
「遺跡詳細分布調査報告書」　『高崎町文化財調査報告書第3集』　高崎町教育委員会　1992

図　　版



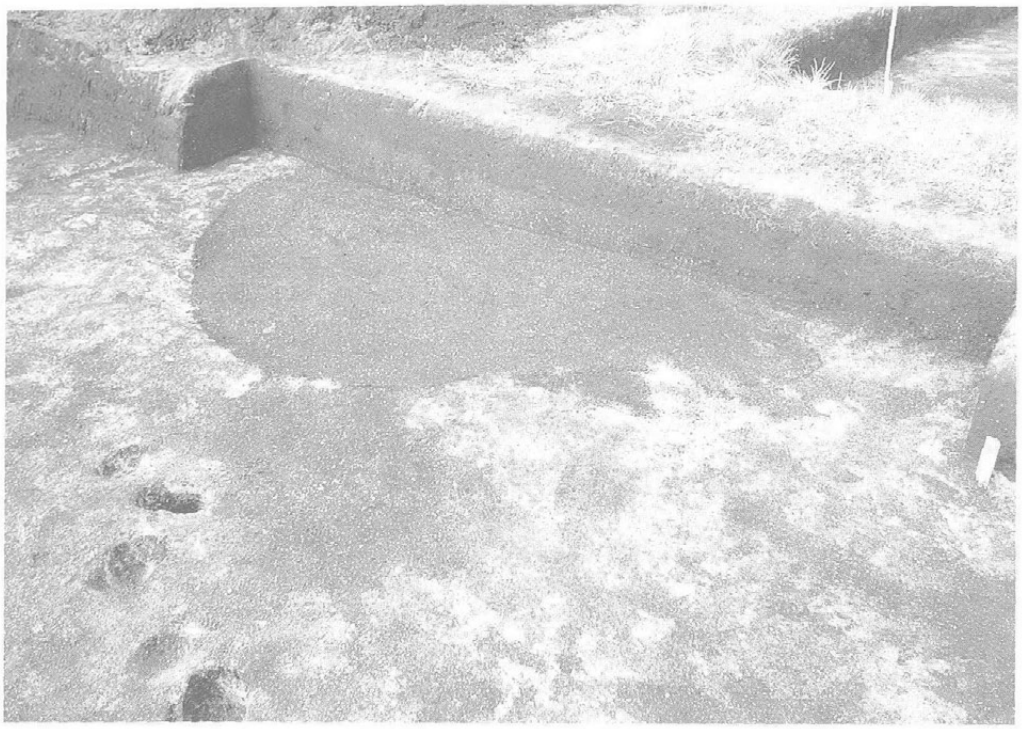
基本土層写真

B地区近景（西から）

図版2

A地区　溝と土坑検出状況

A地区　溝完掘状況

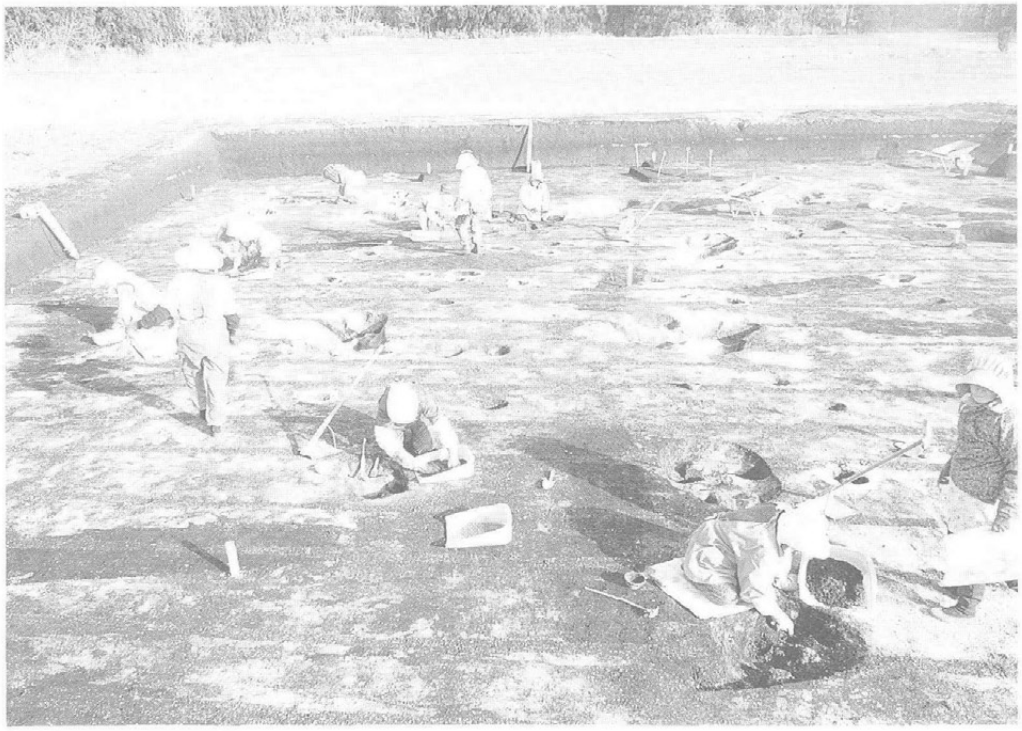


C地区　縄文住居検出状況（南から）

C地区　縄文住居発掘状況（西から）

図版4

B地区　土坑遺物出土状況



発掘調査風景

高城町文化財調査報告書　第3集

上原遺跡（第2地点）

発行年月　平成6年3月

発　　行　高城町教育委員会

印　　刷　有限会社　文　昌　堂